

## 共同宣言

### 日本の未来のために、日本文化の中心・京都へリニアを

東京・大阪を67分で結び、新たな国土軸となる「リニア中央新幹線」は、国民生活に大きな変化をもたらすものです。

現在の計画では、平成39年(2027年)に東京・名古屋間が先行開業し、大阪までの全線開業はそれから18年遅れとなる平成57年(2045年)の予定となっています。

関西全体の活性化を図ることはもとより、「リニア中央新幹線」の整備効果を最大限発揮させていくためには、東京・大阪間の全線同時開業、さらには、関西国際空港への延伸が必要不可欠です。

また、ルート選定にあたっては、利用者にとって便利で、費用対効果に優れ、社会的な影響を総合的に評価して、国全体にとって最も優れたものを検討していくべきものです。

昭和48年に東海道新幹線の代替ルートとして中央新幹線の基本計画が決定されていますが、その後、磁気浮上りニア方式により整備されることとなり、その機能や影響は、当初の計画から大きく変わっています。しかし、今日に至るまで、名古屋・大阪間のルートについての具体的な検討は一度も行われていません。

日本の精神文化、ものづくり、学術、文化、芸術、宗教等の中心として、千年を超えて今も世界の人々を魅了し続ける京都が文化首都としての役割を果たすことは、日本の未来にとってとても重要なことです。そのためには、「リニア中央新幹線」は、京都を通るルートで整備されるべきです。

京都府中央リニアエクスプレス推進協議会(京都府リニア中央新幹線推進協議会)は、次の事項の実現に向け、オール京都で強力で活動を推進します。

- 新たな交通の大動脈となる「リニア中央新幹線」のルートは、日本全体にとって最適なルートで整備されるべきであり、名古屋・大阪間のルートについての比較分析を早期に実施したうえで、「京都駅ルート」を実現すること。
- 「リニア中央新幹線」の整備効果を最大限発揮させるために、東京・名古屋間に遅れることなく、国家プロジェクトとして東京・大阪間の全線を一体的かつ早期に完成させるとともに、関西国際空港へのアクセス改善を図ること。

平成26年1月17日

京都府中央リニアエクスプレス推進協議会  
(京都府リニア中央新幹線推進協議会)